

海星

海星中学校同窓会会長

下野 国雄

第四十回文化祭が盛大に開催されたこと、心からお喜び申し上げます。

まず今回の文化祭テーマである、「青春」私たちが輝くときを全校生徒の皆さんが一体となって全力で表現したことに、皆さんの限らない力強さを感じました。

プログラムの「英語スピーチ」、「劇」は中学生とは思えない素晴らしい発音で、よく練習を積んでいたものと思います。また、「中期交流」では小学校五・六年生と一緒に「下甕の産業と観光」について、よく調べあげまわっています。さらに「地域貢献」では、下甕島の観光について、島外からの観光客目線で島の素晴らしい観光が紹介されています。

発行：薩摩川内市立
海星中学校PTA
編集：生活研修部
平成30年3月13日発行

郷土芸能の出羽踊り・青瀬ヤンハも父兄の皆さんや伝統芸能保存会の皆さんが良く練習され、勇壮な踊りを披露したことに感動しました。生徒、教職員の前で皆さんが一体となって創り上げた、まさに四十回記念の文化祭にふさわしい催しだったと思います。展示部門も書道・絵画・手芸等々展示され、それぞれの作品の出来栄に感動を覚えたところです。

この文化祭で発揮された全員の協調、協働の精神を忘れることなく、今後も海星中学校の生徒である誇りをもって学び、頑張ることを期待します。



海星中学校PTA会長

中川 英之

四十年という節目に、同窓会会長を初めとする役員の皆様、地域の皆様、学校職員の先生方のご協力により、記念体育祭等、数々の行事を楽しく進行する事が出来、大変感謝しております。中学生たちも心に残る良い思い出ができたことと思います。これから五十年、六十年と海星中学校の伝統として継続されることを望みます。

初めて経験することに取り組むとき、すぐには要領はつかめない。工夫を重ね、研鑽に努めても、なかなかうまくいかないのが普通です。成果があがらないと、自分には向いてないと、心を悩ませます。自分に向いているかどうかなど簡単にわかるものではない。だからいたずらに心惑わされず、ともかく目の前のことに没入し、これをやるのも一つの運命、必ず何らかの意味があると定め、コツを会得できるまでやる。継続は決して裏切らない。これからも皆様の協力

をよろしくお願い致します。



青瀬地区伝統芸能保存会

東 実

トントコトン・トントコトン・トントコトン。太鼓の音が響きリズムをとる。「そらーっ」の掛け声とともに飛び出して踊るヤンハが始まった。何度もこの光景を見てきているのに、なぜかいつもこの出だしだけは胸が躍る。

文化祭に向けての練習で懸命に踊っている生徒の姿が浮かんできた。最初は恥ずかしそうに弱弱しかった踊りが少しずつ変わっていく。「声が小さい」「手は大きく」「足は高く上げて」等々、指

指導者の容赦のない声が響く。子供たちの真剣な取り組み、指導者の熱い思いが伝わった。練習の時間も少ない中、よく頑張った子供たち。伝統芸能というのは、このようにして受け継がれてきたのだとしみじみ思うことであつた。本番では化粧をして衣装をつけて、自信にあふれた表情で勇ましく堂々と踊ってくれた。たくさん拍手を聞きながら、練習に打ち込んでいた子供たちの顔を思い出し胸が熱くなった。

海星中創立四十周年記念の文化祭は、郷土芸能の発表で幕を閉じた。多くの地域の方々の観覧があり、生徒と先生方が一体となった劇や合奏合唱など、生き生きとした発表に称賛の声が上がっていた。また、子供たちの頑張りにも感心させられた時でもあつた。

将来、待ち受けているであろう多くの困難にも立ち向かっていってほしいと願う。

この素晴らしい伝統を引き継ぎ、海星中がいつまでも続くことを願いながらの、感

動の一日であつた。



長浜地区郷土芸能保存会
出羽部門 宮 浩一

海星中学校四十周年という節目の年に、今年の長浜地区の郷土芸能は出羽踊りだつた。しかし、困つたことに生徒が三名しかいない。出羽踊りは六名以上しかも男子だけで編成しなければいけないのだ。

先生方、出羽踊り保存会で話し合つた結果、父兄を入れてはどうかということになり練習が始まつた。最初は声も小さく腰も落とせなかつたが、練習を重ねて踊りを覚えていくうち、だんだん自信がつき声も大きく出せるようになり少ない練習の中よく頑張ってくれたと思ひます。

本番では、生演奏、大人と子供達の踊りが一体化し堂々と勇ましく踊りきつてくれました。

このように一つの事をやり遂げた達成感、自信を忘れず今後の人生のあらゆる困難に負けず頑張つていって欲しいと願ひ、これからもこの素晴らしい伝統芸能を皆で協力して受け継いでいかなければならないと思う一日であつた。



「文化祭」
生活研修部部长
大田 邦子

十月二十八日(土)、「青春! 私たちが輝く瞬間」のテーマのもと第四十回文化祭が行われました。

わずか十三名の子供たちが創り出す文化祭とは思えないほどのクオリティーの高さに驚かされ、鑑賞している私たちにたくさん感動を与えてくれました。まさにテーマのごとく全員が輝きを放った文化祭でした。この成功の裏には日々の子供たちの努力と先生方の熱いご指導があったからこそだと感じます。

今年には四十周年記念ということもあり、郷土芸能では保護者や地域の方の出演もありました。親子の共演やお孫さんとの共演もあり、改めて郷土芸能の良さを感じました。そして、展示では卒業生のこれまでのアルバムも並べられ当時は懐かしむ卒業生の姿も見られました。節目にふさわしく、これからの海星中学校の輝く未来を期

待させる文化祭でした。



職場体験学習

ホテルこしきしま親和館
女将 中野 和子

毎回、私をはじめスタッフ一同楽しみにしている職場体験学習に四名の女子学生を今年も受け入れることになりました。表部分としてのホテルの仕事はもちろん、弊社がおもてなしの一つとして大切にしている裏方の仕事「清掃」も体験してもらいました。そして、清掃がなぜ大切なのかということも学んでいただけたとおもっています。

たったの二日間の職場体験でしたが、海星中の生徒の自主的に学ぶ姿勢と英語力の高さに驚きました。これが

らの時代は、多様性とグローバルです。自分らしい生き方が問われ、いろんな人と関わる表現力が必要とされる時代であります。そのためにも、中学校での基礎学力をしっかり身につけて、その中で自分の興味を持つこと、好きなことを是非とも見つけて欲しいです。きつとそばにいる保護者はもちろん、先生方も応援してくれるはずですよ。少子化の中、今後ますます海星中PTAが、地域と協力し合い発展しますことを願っております。



足跡く成長を振り返って

上江 英造・千賀
ついこの間入学したよう
な気がするのに、あつという

間に三年間過ぎてしまいましたが、いつの間にか背も見上げる高さになりました。大きくなったと実感しています。自身の部分では、自分の考えをはっきり伝えたり、友達との関係を冷静に分析している姿に成長したと思います。これからは自分のことは自分でしっかりできるように頑張りたいと思います。

上江 悠太郎

十五歳となった僕は今、父と母とに伝えたい思いがたくさんあります。昔から自主学習を好まなかった自分に、つきっきりで勉強を教えてくれた母。元気がないときもいつもそばにいて笑顔をくれた父。あと数か月で離れ離れになってしまふのはつらいけれど、今まで教わってきたことを胸に高校生活を頑張ろうと思います。十五年間ありがとうございました。



高山 裕也・舞子

中学校に入学してから三年間本当にあつという間でした。この三年間いろいろなことがありました。でも一つ一つ自分で努力して乗り越えてきました。たくさんさんの経験を積んで大きく成長したと思います。

高山 花音

これからも、人に優しく、コツコツと努力する長所を大切にがんばってほしいと思います。

田原 竜巴・アイミー

時間が経つのは早く、あつという間に十五年が経ちました。三年前は長女が島立ちし、そして今年には次女が島立

ちです。次女は勉強だけでなく部活動など、何事にも一生懸命取り組む子でした。

これから島立ちというところで不安なこともあると思います。しかし、いつものような明るい性格で島を離れても楽しんでほしいと思います。

田原 優

私たちはもうすぐ卒業し、島立ちをします。楽しみという気持ちもあれば、不安な気持ちもあります。私がいままで来られたのは今まで支えてくださった方々がいるからです。だから私はそのような方々のためにも胸を張って卒業、島立ちをしたいと思っています。この十五年間本当にありがとうございます。高校でも頑張ります。



中川 英之・純子

卒業おめでとう。中学校生活は桃子にとってどうだったのだろうか。今は、苦しか

ったことが心に多くあって大人になった時「素晴らしい心の宝となり中学校生活を思い出す」と考えている私達です。笑顔・感謝する心、努力する事をこれからも忘れないでほしい。桃子がお世話になってほしい。桃子が感謝します。ありがとうございます。海星中学校。

中川 桃子

私はたくさんの人に支えてもらうことができました。私を十五年間ずっと育ててくれた両親、いつでも味方でいてくれた兄弟、わかるまで勉強を教えてくれた先生、いつも一緒にいてくれた悠太郎、花音ちゃん、優ちゃん、あきちゃん、紀亜ちゃん、ありがとうございます。そして大好きです。私に感謝の気持ちを伝えてくれて本当にありがとうございます。

西 一久・幸枝

小さいころから何ごとに対しても、こつこつと頑張ってきた陽歩に、今日まで大きな病気もなく、健康に育ってくれてありがとうございます。十五年間

の思い出は、忘れることができない一生の宝物です。四月から高校生活、慣れない環境の中で不安ばかりだけど、頑張る前に進んでください。

西 陽歩

小さいころから泣き虫で、好き勝手なことばかりするくせに、思っていることははっきりの口に出不さない大変な子供だったと自分では思っています。多分今でもそうですが、こんなに大きく成長することができました。ありがとうございます。私のことは何でも分かってくれる。こんな幸せな家に生まれてくることができ、良かった。高校、頑張ります。



東 一清・みどり

卒業おめでとう、この三年間を振り返ってみると、いろいろありました。特に体調を崩し学校を休みがちになったり、これまで以上に頑なに、お父さんに対して反抗する

ことが心配でした。少しでもいいからお父さんに優しくしてください。また、一番びっくりしたのは、目標に向かって勉強を頑張った高校の受験に合格したこと。何に対しても諦めていた我が子が誇らしいです。これからも諦めずに自分の夢を叶えられるように頑張ってください。

東 紀亜

入学してから三年間ありがとうございました。私はこの三年間でたくさんのお話を聞きました。高校では、教えてくださいましたことや学んだことを生かしたいと思っています。本当に三年間いい中学校生活でした。



〜編集後記〜

今年度のPTA新聞は創立四十周年という節目の年の体育大会や文化祭をメインとした内容を掲載して参りました。

前期・後期の二回の発行にあたり、先生方や地域の方々に多くのご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。また、来年度も楽しい紙面をお届けできるよう努めてまいります。一年間ありがとうございます。